

2023 休眠預金事業

(原油価格・物価高騰 子育て及び新型コロナ対応支援枠)

No.1 2024.8.2

【編集】

長野県中間支援コンソーシアム
プログラムオフィサー



休眠預金事業 2023 11 実行団体決定！

市町村社協—6、NPO 法人—2、施設・一般社団法人—各位 1、その他—1

【事業名】 アウトリーチを主体とした多様な課題を抱えた家庭・個人への支援事業
—「見えない、届かない」から「つながり、支える」支援の仕組みづくりへ—

【事業項目】 原油価格・物価高騰、子育て及び新型コロナ対応支援枠
(JANPIA が定めた資金分配団体公募区分による)

【実施期間】 2024 年 6 月～2025 年 2 月 (10 カ月程度)

【助成額】 総額 約 1 億 2000 万円
(1 団体当たり約 517 万円～1,623 万円)



事業名・具体的な主な
事業・団体別助成額は、
4 ページに掲載

長野県中間支援コンソーシアム
(資金分配団体)

- 公益財団法人 長野県みらい基金
- 社会福祉法人 長野県社会福祉協議会
- NPO 法人 フードバンク信州



2023 休眠預金事業の実行団体は、長野県みらいベースと JANPIA のホームページにアップ中！

<https://www.mirai-kikin.or.jp/kyumin-yokin-bukka-2023>

公共的活動応援サイト
しあわせ信州 長野県みらいベース

休眠預金事業

2023年度 原油価格・物価高騰、子育て及び新型コロナ対応支援枠

アウトリーチを主体とした多様な課題を抱えた
家庭・個人への支援事業を募集します

<https://johokoukai.janpia.or.jp/>

休眠預金を、社会のために。

「休眠預金活用事業 情報公開サイト」は
休眠預金を活用した事業や団体の情報を公開し、その情報を検索できる
休眠預金活用事業の情報公開・情報検索サイトです。

2日目

長野県福祉大学校

分科会

6

物価高にまけるな 信州に広がる助け合いの輪!

2・3ページの紙面は、「長野県まちづくりボランティアフォーラム2023」（2023.12.2 長野県福祉大学校で開催）報告書の「休眠預金事業分科会」を転載



物価高や生活困窮の広がりの中で、フードバンクやリサイクル活動など、各地に広がる助け合い活動と企業、行政関係者の学びと交流を進めます。困窮世帯の実情を共有し、地域ごとに助け合いの輪を広げていくために、ボランティアやNPO、社協、社会福祉法人、行政の連携について考えました。

生活に困窮しても相談窓口に行くことをためらう人が多いという課題があります。ニーズの掘り起こしが必要です。



進行
長峰 夏樹

長野県社会福祉協議会
まちづくりボランティア
センター 所長

実践報告

はじめに

『物価高対応・緊急支援事業』は目に見えないニーズを掘り起こし、その声を行政、まいさぼにつなげることを目指します。

登壇者

美谷島 越子さん

長野県中間支援コンソーシアム
NPO法人フードバンク信州理事長



物価高対応・緊急支援事業は、休眠預金を活用して長野県みらい基金、長野県社協、フードバンク信州のコンソーシアムが資金配分団体となり、助成を受けた県下10団体によって食料や日用品、学用品などの緊急支援を行う事業です。

支援を通して目に見えないニーズを掘り起こし、その声を行政、まいさぼにつなげることを目指しています。

物価高で苦しんでいる人、将来困窮に陥るかもしれない状態にある人など、必要な方に必要なものを届けるにはどうしたらよいか、みんなで知恵を出し合って困窮を地域で考える多様な取り組みが必要です。

第6分科会では実行3団体からの取り組み報告を通して、新たに見えてきた課題を考えていきたいと思います。

実行団体



実践報告

子ども応援ボックス

応援ボックスの取り組みを通して行政、社協との連携が深まりました。

登壇者

木村 かほりさん

NPO法人信州協働会議



信州協働会議では、子どもの居場所や子ども食堂のネットワーク化を進めている諏訪圏域子ども応援プラットフォームの事務局をしています。今回は活動を発展させようと、休眠預金を活用し、必要な人へ必要なものを届ける仕組みづくりとして子ども応援ボックスの取り組みをしています。

行政、社協、まいさぼとも連携し、申し込みフォームに希望する食料・日用品・生活用品などを記入してもらい、それを箱詰めして手渡しています。申し込みや受け渡しの時には困り感の聞き取りをし、私たちが対処しきれないことは各機関につなげます。これまで延べ300人を超える方への支援をしてきました。

食料物資の配達の仕事づくりでは、LINEのオープンチャットで50名ほどの居場所の仲間が食材の寄付の情報をやりとりしています。



月刊ぶらざら諏訪に居場所の開催情報を掲載

実践報告

カレー大作戦など伊那市社協の取り組み

カレー大作戦は、子どもの笑顔が一番の目的。地域の力に支えられて継続しています。

登壇者

中村 正人さん

伊那市社会福祉協議会



伊那市の子どもの関係の支援は、行政、社協、民間団体が連携し、**子育て応援**（子ども食堂支援やフードバンク事業などの予防的支援）と**子育て支援**（生活困窮や虐待など緊急性が必要な家庭への介入的支援）の取り組みをしています。

子どもたちに元気を届けようと始まった**伊那市カレー大作戦**は、毎月市内約20か所で子育て家庭対象に、カレーを容器に詰めて提供（子ども無料、大人300円）するイベントです。長野県みらい基金による**伊那市子ども笑顔チケットプロジェクト**は、市内の協力飲食店の配布チケットで子どもたちが無料で食事ができます。

休眠預金活用の上**伊那ブロック社協食糧支援事業**では、特例貸付の償還免除世帯に月1回6ヶ月にわたって食糧と生活物資を250世帯に配布しました。また、困窮世帯の子どもたち対象の**ふれあい食堂**は、公民館とボランティアの方々の協力を得て学習支援と食事提供をしています。

これらの取り組みは、次のステップにつながるきっかけとして、地域を巻き込み、飲食店や学校などの協力を得ながらできていると思っています。

北アルプスから松本平までチャレンジを届けよう

支援を受けることへの戸惑いと価値観の多様化を実感しますが、継続は力なりだと思います。

登壇者

松澤 重夫さん

NPO法人北アルプスの風
障がい福祉部長・地域づくり支援課長



私たち法人では、①**障がい者支援事業所（就労系）による生活困窮者の方への食料・物資無料支援**と、②**若者対象の資格取得（介護関係の資格と自動車普通免許）支援**に取り組んでいます。

①では、食糧等支援の物品の仕分けや配送等に関わることで、**障がいのある方の就労**に結びつき、社会貢献による地域啓発につながる事業だと感じています。

②は、周知不足と時期的な問題で募集がなく、普通免許は関係機関との調整がうまくいかず、未実施の状況ですが、**可能性はある**ので今後も取り組みを継続していきます。

取り組みに際しては、大北地域の**市町村社協と連携**し、実施体制の整備を進め、**月1回定例会**で市町村ごとの状況や課題等を共有しました。また、**教育委員会**や**子育て支援課**への情報提供を行いました。

今回の事業で**各機関との関係づくりが進んだ**ことは、とても良かったと思っています。



意見交換

総評

アウトリーチとニーズ把握で行政支援が届かない人にアプローチする取り組みを継続していきたい。

登壇者

高橋 潤さん

長野県みらい基金理事長



今回の**物価高対応・緊急支援事業**は、行政支援では届かない**アウトリーチの支援とニーズ把握に向けた支援**が大きなテーマとなっています。食糧支援の戸別訪問で対話よってのニーズ把握や、手に職をつけて収入の道をつけるというチャレンジもありました。

今回のコンソーシアムもいろいろなステークホルダーの人たちとつながり、今まで**それぞれに活動していた人たちが一緒になって取り組むことで、地域の多様なニーズに対応**できるということが分かりました。

これらの取り組みを継続していくために、活動成果をどう次につなげていくかを皆さんと考えていきたいと思っています。

参加者の課題から

◎必要に迫られていなくても、あれもこれも欲しがるいわゆる「くれくれ星人」の方がいます。

◎「困っていたら相談先を紹介しよすよ」と言うと、「そこまでいい」と言われ、どこまで困っているのかを探れない方がいます。

◎どんな要望にも応えてしまうと、イネイブラーになって共依存の関係になるのではないかと心配があります。

◎支援物資を届ける際、家の場所がわからず、電話をかけても出られない方がいて困りました。電話に出ることに戸惑いを感じました。

●ショートメールだったら返信してくれる可能性が高いと思います。

●金銭の使い方が粗いのかもしれないので、社協としては何が困窮の原因かを知り、弁護士や関係機関との連携を図り、対応しています。

生活困窮のニーズにどこまで応えたいのか、**ボランティアの方自身**がジレンマを抱えていることはすごく素晴らしいと思いました。

本当に困っているとは言えない状況の中で、申請制度による行政の公平平等の支援ではカバーできない方々に寄り添うことができるのは、**ボランティアの柔軟性**です。不公平不平等でもいい。「頂戴、頂戴」と言う人は何人かはいるかもしれない。けれども、おしゃべりして**顔の見える関係をつくって**いける**プラス面**はすごく大きい。やりすぎかなと思いつつも**動き続けること**で、**行政の枠組みと重なり合う協働の部分**をどれだけ**つって**いけるかが大切だと思います。



アウトリーチを主体とした多様な課題を抱えた家庭・個人への支援事業 & 助成額

No.	団体名	事業名	具体的な主な事業	助成額
1	飯田市社協	困難を抱えるこども世帯等への支援事業 「もぐもぐサポーター事業・日用品配布事業	○困窮者世帯への食糧支援を通じ継続的な相談や支援の仕組みの構築 ○児童養護施設から退所者への食糧及び日用品の提供 ○管内の子育て支援課や相談機関との連携体制づくり ○民間事業所との連携により、支え合いに対する意識醸成 等	5,170,900
2	山ノ内町社協	くらし・ふれあいサポート事業	○生活困窮世帯や社会的孤立の方などを対象に日常生活を支える仕組みの構築 ○食料品・日用品をまとめた生活支援パックの提供 ○外国人へのアプローチを含め支援の展開 ○多職種連携や多文化共生の仕組みの検討	10,587,400
3	木祖村社協	しあわせ安心生活応援総合事業	○困窮者世帯へ食料品・生活用品の提供 ○反射式ストーブ・カセット式コンロの貸与、灯油の提供 ○こども食堂等への食料品の提供 ○高校進学（学習塾）支援、中学校入学時の制服等の支援	10,619,200
4	伊那市社協	アウトリーチを主体とした生活困窮世帯等への支援ネットワーク構築事業	○生活困窮世帯へ食料品・生活用品の提供 ○アウトリーチ支援を実施できるネットワークの仕組みづくり ○地元企業や民間事業者、NPO 等関係団体からの協力を得ながら多様な生活支援 ○食糧支援を実施することによって、食にかかる不安を軽減するとともに関係性の構築	12,842,364
5	軽井沢町社協	様々な人をつなぎ気かけ合う場づくりと生活課題に寄り添う支援事業	○食料支援を兼ねたアウトリーチの実施 ○子ども食堂・ちいき食堂への食糧支援と地域の居場所づくり ○生活困窮世帯の子どもに対する学習・生活支援 ○チャレンジ広場の開催 等	8,718,070
6	ワーカーズ コープ・センター事業団	長野県中信地域におけるフードバンク・フードパントリー事業	○生活困難層に緊急的支援として食糧、日用品の提供 ○使われない食品の循環を促進し低コストで安定的に物資を供 ○子育て世帯への波及力を活かし潜在的な困難層へのアプローチ ○フードバンク事業を強化し、他機関との連携を推進	10,677,823
7	北アルプスの風	地域資源を大切に使う皆でつながろう	○食糧支援を通じて、配送業務を就労支援と連携し、地域ボランティアや活動団体など地域内での継続的活動につなげていく ○限界集落にも残る資源の有効活用、柿を加工して支援対象者へ配布 ○未来を担う若者の資格取得（狩猟免許、電気工事など）支援 ○地域における継続した支援や地域の資源を活用する継続的な仕組みの構築	10,613,300
8	はなぶさ学園	物価高騰に負けない緊急支援と在宅ワーク支援の仕組み作り事業	○緊急食糧・生活用品、灯油等の提供 ○はなぶさ防災カフェ開催しアウトリーチ ○在宅就労支援（レザークラフト教室を実施）し、昨年同様在宅就労への技術を提供する。 ○作った作品は防災カフェで販売して、売り上げ金の還元	12,504,500
9	グローブ ソーシャル	諏訪地域みらい福祉創造事業	○生活に困窮している家庭に食料品・生活用品の提供 ○食材については、保存可能な物を購入しパッケージし宅配にて配送 ○こども食堂等への食糧支援 ○生活困窮者の発見をするためチラシ等の配布	7,113,800
10	信濃福祉	アウトリーチによる多様な課題を抱えた世帯への幅広い緊急支援と継続的な助け合いモデルづくり	○困窮者世帯への緊急支援 ○緊急支援ニーズを掘り起こし個別配送等の支援 ○関係機関との連携による生活困窮世帯の把握と緊急支援 ○相談支援機関に関する情報の提供	16,229,990
11	小諸市社協	佐久圏域みらい福祉創造事業	○要支援世帯の生活状況を把握し、食糧や生活物資の支援 ○要支援世帯へ食糧支援等で継続的な支援 ○子ども食堂や子どもに関する事業やイベントを企画する実施団体を支援 ○生活困窮者支援を通じたブロック内の地域づくり	14,800,000
合 計				119,877,347